

目指す学校像	グローバル化した国際社会のなかで良き形成者・リーダーとして心豊かで実践力のある人間を育成する学校。					学校関係者評価は、PTA 役員、後援会役員、同窓会役員、学園評議員からなる学校関係者評価委員会による。		
本年度の重点目標	1 学力の向上と進路の保障 学ぶことの大切さ、理解することの喜びを体得させ、生徒の実態にあった指導を研究し、魅力的で実力のつく授業の展開を図る。 2 礼儀正しい態度の養成 社会の中の一員としての自覚を持たせ、自分を律していくことで自他の心を大事にする必要性をわからせる。 3 クラブ活動の育成強化 生徒の特技や情操を高め、心身の健全な成長を図ると共に、愛校心を育てるためクラブ活動を重視し育成強化していく。 4 地域との連携強化 地域の文化の砦としての信頼を得ると共に、積極的に交流を深め、地域の活性化の一躍を担う。							
達成度 A:ほぼ達成(80%) B:概ね達成(60%程度) C:変化の兆し(40%前後) D:まだ不十分(40%未満)								
番号	評価項目	現状と課題	具体的な方策	評価指標	達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者の評価
1	●学力の向上 ●学習環境の整備	●全コースで学力向上が急務である。クラス内生徒の学力幅が広い。家庭学習の時間が極めて少ない。学力や意欲に応じた課題の出し方に工夫の余地ある。	●授業の充実→教科研修や教科会で模試の分析、対策実施。 ●家庭学習の定着→宿題、スタサプ、デジタル教材等の活用。 ●赤点者の減少と評定値の適正化→低学力層対象の定期試験前講座等実施。 ●学力アップ、検定取得に繋がる進学基礎講座の設定と実績。 ●教科主任、コース委員長連絡会の充実。 ●校務支援システムを導入し、成績開示、出欠確認等の簡便化を図る。	●学期ごとの赤点者率15%以内、学年2%以内。 ●実力テストC ランク以上 S特、選Ⅰ 河合・進研模試、偏差値50以上、上位層70以上 ●講座受講者アンケート実施、希望講座開講。 ●教科・コース長会議 月2回	●学期ごとの赤点者率 赤点者率25.1% 学年4.8%(昨年 23.3%/6.9%) ●実力テストC ランク入学レベル以上 3年 4月20% 6月22% 2年 6月18% 10月15% 1月31% 1年 10月26% 1月31% ●河合・進研模試(選Ⅰ・S特) S特SS50以上 S特3年のみ達成。選Ⅰは平均 42.0。上位層70上 ●上位層70以上 S特。選Ⅰ全学年で達成。 ●講座 受講者586名(令和4年度523名) 夏期休業 受講者302名(令和4年度232名)	B	概ね目標数値を上回るか達成できている。英検取得に向けて国際教育部と協調し取得率アップにつなげたい。模試については事前事後指導を強化していきたい。講座について受講生のニーズにこたえる形で受講者増につなげたい。	具体的な数字で成果示されている。子供たちの学力向上にむけ、さらに教員研修を続けてほしい。
	●英語検定・ICT教材 校内英語コンテスト ●異文化交流プログラム ●校外語学研修・海外留学	●英検受験者は増加傾向にあるが昨年度一斉受検では3級、準2級とも約10%にとどまる。 ●オンライン英会話15回実施。 ●スタディサプリ・イングリッシュの活用度低い。 ●グローバル・スタディーズ・プログラムを実施している。 ●国内短期プロ等の異文化交流を実施している。	●英検ウィークの設定によりモチベーションアップ。 ●授業内スタディサプリ・イングリッシュの活用と週末課題としての活用。 ●単語コンテスト、スピーチコンテストの実施。 ●グローバル・スタディーズ・プログラムの推進 ●トーキョー・グローバル・ゲートウェイのコース行事化。 ●カフェテリアコラボ海外フェア。	●年間英検取得率 選抜Ⅱ・アスリート3級50%、S特・選抜Ⅰ 2級20%、準2級50% 準1級合格者を出す。 ●スタディサプリ・イングリッシュレッスンを進めているか。 ●グローバル・スタディーズ・プログラムを推進できたか。 ●語学研修を計画通り実施したか。	●英検取得率 選Ⅱ・アスリート 3級 27.0% (昨年度30.7%) 選Ⅰ・S特 準2級 46.5% (昨年度41.8%) 選Ⅰ・S特 2級 9.9% (6.7%) ●スタディサプリ・イングリッシュの推進 夏休み課題を全体に配信したが取り組み率低い。英単語コンテスト、スピーチコンテスト実施した。 ●グローバル・スタディーズ・プログラムの推進 参加生徒35名。 ●異文化交流プログラム(MO 国際交流 day の開催) ミスインターナショナル交流のイベントを成功させることができた。	B	一斉受験の合格率、年間取得率準2級は目標数値に迫るところまで来ている。ボリュームゾーンである3級がまだまだ低迷しているため抜本改革を行う。次年度はマレーシア研修と合わせて国内での校外イベントの募集もかけたい。	英語力強化に向けた様々な取り組みは強化できる。上向き傾向にあるがまだまだ成果が足りない。一つ一つのイベントに対し丁寧にPDCAサイクルをまわし、ブラッシュアップに努めてほしい。部活動との兼ね合いが難しい。英会話の授業が少ない。
3	●進路講演会等拡充。 ●全国模試を活用し学力向上を図る。 ●第一志望校合格に向けた進学指導の強化。 ●キャリア教育の充実	●目まぐるしく変化する社会情勢に対しアンテナを張り巡らす。 ●全国模試に対応する学力の育成 ●第一志望校合格に向けた指導の充実。 ●高校1年生から、自らの生き方、働き方を考える。	●各学期に進路後援会を設定。 ●GTZ 向上に向けたプロジェクトチームの立ち上げ。 ●大学との連携。 ●進路指導面談の実施 ●体験行事の拡大や体験授業やOCへの参加の強化。	●大学・短大進学率80% ●各学期に適切な講演会を実施できたか。 ●プロジェクトチームで新たな提案を行い、GTZは上がったか。 ●大学進学者の第一志望の達成状況。 ●上級学校への連携による意識の変化。	●3学年生徒全員との進路指導部面談を実施。 大学・短大進学率81.8% 国公立12名(昨年8名) 早慶上理レベル4名(昨年5名) GMARCHレベル13名(昨年17名) 成成明独国武レベル45名(昨年34名) 日東駒専レベル76名(昨年75名) 大東亜帝国レベル167名(昨年143名) ●第一志望校の合格率70%超。	B	進路講演会の充実と内容の改善。初期指導の強化を行い能動的な学習を行い学力向上を図る。総合型選抜、学校推薦型選抜の受験対策の充実と一般選抜への対策の充実。高大連携先の充実や体験行事の質の向上。	有名私大の合格者数が増加している。先生方のきめ細かい指導とその指導についていく生徒のマッチングの成果。進路における自己実現については学校、学年、クラスの学習環境、雰囲気が非常に大切である。うまく回っているということだ。

4	●社会環境に対応した高速への偏向。 ●いじめ防止、撲滅に向けての活動。 ●SNS、携帯依存の問題への取り組み	●社会環境に即した生徒指導と教員の認識を統一する。 ●いじめ・SNSの誹謗中傷等の問題行動撲滅に向けて各分掌と連携する。 ●生徒指導案件0に向けた取り組み	●社会情勢を鑑み、他校と連携し最適な校則を検討する。 ●アンケート「こころの健康について」の実施。各分掌との連携により事前指導、早期発見に努める。 ●携帯安全教室の早期実施。Chromebook 活用についてのルール作り。 ●今未来手帳の活用。	●生徒指導件数を減らすことができたか。 ●転・退学者を減らすことができたか。 ●SNSトラブルを減少できたか。 ●挨拶、マナーが定着し学校生活が送れているか。 ●生徒の様々な声を逃さず対応できているか。 ●日頃から生徒とコミュニケーションを図り関係部署が取れているか。	●生徒指導件数(令和4年度、令和3年度同時期) 14 件22名(11件27名、13 件16名) SNS のトラブルは減少傾向。飲酒・喫煙が増加傾向。 ●転退学者(令和4年度、令和3年度同時期) 転学22名退学4 名(転学 22 名退学 7 名、転学 15 名退学 3 名) 転退学者は増加傾向にあり特性のある生徒の増加とその対応が必要。 ●「あなたについてのアンケート」 年間4回実施。担任との面接 SC との面接につなぎ問題解決に取り組む。	B	「普通」「常識」という考え方が今と昔ではかなり変化していると感じる。時代に応じた対応と学校という学びの場としての対応を判断し実践していく必要がある。	2022年4月から成年年齢引き下げられたことと飲酒、喫煙による指導権数が増えたことと関係があるか。いじめ防止についての取り組みも引き続き進めて欲しい。
5	●生徒の心身を鍛え、特技・特性を伸ばす。 ●部活動強化。	●学校行事もコロナ前に戻り、積極的に取り組むことができている。 ●部室の清掃、部日誌の活用で自治活動の推進が必要である。	●生徒会、各委員会との連携と、生徒への支援、協力体制を図る。 ●部室点検、部活動日誌の定期点検。 ●クラブ顧問会を開会による意識の向上を図る。	●部活動加入率 ●部活動の実績 ●部日誌の有効活用 ●学校行事の実施状況	●部活加入率 89.7％(運動部67%文化部25.6%) ●全国大会出場 男・女ソフトテニス部、柔道部、弓道部和太鼓部。鹿児島国体 柔道部男子 1 名、男子バスケットボール1名。関東大会 弓道部、陸上部。 ●部日誌の提出と点検。 ●学校行事 体育祭、強歩大会については PTA の協力のもと事故もなく満足度の高いイベントになった。	A	多くの部活動が全国大会、関東大会に出場できた。新部活も誕生し生徒のニーズに合わせた部活動が生徒の満足度を高めている。効率を考えた部活動の推進と SNS を活用し部活動の魅力を発信していきたい。	練習の成果が結果に結びついている。クラブ活動を通じて社会性(チーム志向、心と体を鍛える)を身に付けてほしい。
6	●開かれた学校を目指し、地域・保護者と連携する。 ●定員確保による学校評価。	●PTA、後援会、同窓会の連携により、学校行事及び教育活動の運営に更なる成果を求める。 ●380 名の定員に届かない。	●PTA・後援会・同窓会の活動を通じ魅力ある学校作りを推進。 ●生徒募集関係イベントの質の向上。 ●Web の積極的活用。 ●地区別チラシを作り個別最適化を図る。	●学校評価委員会、PTA、後援会からの評価。 ●方策が実行でき募集定員を集められたか。 ●各イベントの集客数 ●SNS 閲覧率・登録者数 ●各イベントリピート率	●PTA・後援会の年間行事は予定通り実施できた。 ●生徒募集のイベント増や質に改善のより単願希望者が増えており成果は認められる。 ●WEB を使った SNS を活用している。特に「X」や「Instagram」の投稿が増えており、フォロワーも増加している。 ●イベントの増加により、リピート率が上がっている。しかし、OC に繰り返し来るなど、同一イベントでのリピート率はいまだ高くない。	A	三位一体による教育活動の充実。SNS の効果的活用と更新速度の強化。	PTA・後援会・同窓会活動もコロナ前に戻りつつある。生徒募集については SNS の有効活用を更にすすめてください。